

【アーティストサポート】を通して、アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。  
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

＜ショパン・ピリオド楽器プロジェクト＞

S.O 北村真 トゥルーラブ真智子 平山美由紀  
(匿名希望 4名)

＜2023年度年間サポート＞

F.A Y.A T.I 井上豊 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O 片山由美子  
河村はるみ K.K 木村美明 M.K 小室秀夫 N.S 新貝康司 N.S M.S 関根一祿 A.D 土屋涼子  
トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 N.N 中島和 中野和枝 中村尚義 中村美穂 T.H N.H M.H  
平山美由紀 藤野盾臣 細沼康子 M.H 松尾芳樹 松田香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M H.Y S.Y 渡部伸子  
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルトハウス・ジャパン by 株式会社キタマ  
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション  
ライフプラン株式会社 Heart of the Earth株式会社  
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社  
株式会社青林堂 日本パデレフスキ協会淡路  
(匿名希望 26名)

＜館野泉バースデープロジェクト＞

Y.A 阿部将任・登美子 新井京子 池田光世 一柳吉子 A.I 遠藤一秀 大嶋早苗 大嶋浩美  
大谷恵美子 S.O 奥田三華 小畑裕子 木全恵美子 久保春代 M.K 黒川智恵美 黒住彰子  
斉藤久子 坂井和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T 田口雅子 田邊英利子 土谷美保子  
永作稔 中村恭子 中村康江 K.H 羽生賢次 林雄嗣・鈴子 福島晶子 堀田高秀 松田純子  
三上美智恵 光永育 K.M 山家七恵 S.Y K.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子  
館野泉ファンクラブ東京 館野泉ファンクラブ東北 タビオラの会 日本セヴラック協会 有限会社ムジカーザ  
NPO法人 Mプロジェクト スオミ・ピアノ・スクール研究会  
(匿名希望 20名)

＜ニュークラシックプロジェクト＞

浅岡尚子 岩井陸雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜 篠崎啓史 I.S T.S  
トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 T.N 長谷部 宏行 秦勝重 T.H 林路郎 細沼康子 牧野佳那  
松下泰之(マティピ) S.Y  
(匿名希望 14名)

2024年1月20日現在 敬称略

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの  
詳細はこちらを  
ご覧ください。



第2回  
ショパン国際  
ピリオド楽器コンクール  
優勝者コンサート

The 2nd  
International Chopin  
Competition on Period  
Instruments Winner's concert

エリック・グオ(ピアノ) Eric Guo, Piano

鈴木優人(指揮) Masato Suzuki, Conductor

バッハ・コレギウム・ジャパン(管弦楽) Bach Collegium Japan, Orchestra

2024年1月30日(火) 19:00 開演

東京オペラシティ コンサートホール

7:00p.m., Tuesday, January 30, 2024 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催：ジャパン・アーツ 共催：公益財団法人東京オペラシティ文化財団  
後援：ポーランド文化・国家遺産省、アダム・ミツケヴィチ・インスティテュート、駐日ポーランド共和国大使館  
ポーランド国立フレデリック・ショパン研究所(NIFC)、ポーランド広報文化センター  
協力：タカギクラヴィア





#### ご来場の皆さま

ワルシャワで開催された第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール優勝者のエリック・グオ氏が、鈴木優人氏指揮バッハ・コレギウム・ジャパンの伴奏で演奏する、今夜のコンサートにお集まりいただきましたことに、深甚なる感謝の念を込めてお礼の言葉を申し上げます。今夜みなさまは、ヨーロッパ文化遺産の2人の重要な人物であるショパンとモーツァルトを紹介するレパートリーを旅します。この魔法のような夜が、みなさまに、音楽は感情と芸術性を伝える普遍的な言語によって私たち全員をつなぎ、時間と国境を超越するというのを思い出させてくれますように。

今一度、この記念すべき祝賀会にご参加くださり感謝申し上げます。私は、みなさまのご来場を心より光栄に感じるとともに、この素晴らしい芸術イベントを準備して下さった主催者、特にジャパン・アーツ様に感謝いたします。

駐日ポーランド共和国大使  
パヴェウ・ミレフスキ

Ladies and Gentlemen,

It is with profound gratitude that I extend my thanks for your attendance at this evening's concert, featuring the esteemed winner of the 2nd International Chopin Competition on Period Instruments in Warsaw, Eric Guo, accompanied by Bach Collegium Japan under the baton of Masato Suzuki. Tonight, you will journey through a repertoire that presents two important figures of European cultural heritage: Chopin and Mozart. May this magical evening remind you that music transcends time and borders, connecting us all through the universal language of emotion and artistry.

Again, thank you for being a part of this memorable celebration. I am deeply honored by your presence and would like to thank the organizers, especially the Japan Arts, for preparing this wonderful artistic event.

Paweł Milewski  
Ambassador of the Republic of Poland to Japan



#### ご来場の皆さま

私は、本日、ワルシャワで開催された第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール優勝者エリック・グオ氏のコンサートの折に、みなさまにご挨拶できることを嬉しく思います。

ポーランド広報文化センターが本イベントを支援できることは、大いなる光栄であり喜びです。2世紀近くにわたり、フリデリック・ショパンの音楽は、この傑出したポーランド人作曲家の作品を崇拝する世界中の人々をひとつに結びつけてきました。私は、フリデリック・ショパン愛好者の数が増え続けていること、現代楽器・ピリオド楽器を問わず、ショパン国際コンクールへの応募数についても同様であることを喜ばしく感じています。

ショパン時代の真の精神を反映した繊細な音色を生み出すのは、フリデリック・ショパンのお気に入りだったプレイエルなどの歴史的ピアノ楽器です。本日、カナダの傑出したヴィルトゥオーゾであるエリック・グオ氏のおかげで、私たちはこの魔法を体験し、ポーランド・ロマン主義の時代へと時間旅行を行うことでしょう。

私は、この素晴らしいコンサートの企画、そしてポーランド音楽とショパン国際コンクールの日本における広報に対して、ジャパンアーツ社に、心よりお礼申し上げます。

エリック・グオさま、大いなる成功にお祝いの言葉を!

みなさまが、忘れ難い芸術的経験を味わわれますように。

ポーランド広報文化センター所長  
ウルシュラ・オスミツカ

Ladies and Gentlemen,

I am pleased to address you today on the occasion of the concert of Mr. Eric Guo – the winner of the 2nd International Chopin Competition on Period Instruments held in Warsaw.

It is a great honor and pleasure for the Polish Institute in Tokyo to support this event.

For nearly two centuries, the music of Fryderyk Chopin has been uniting admirers of the brilliant Polish composer's works all over the world. I am delighted that the number of Fryderyk Chopin fans continues to grow, as well as the number of entries to the International Chopin Competitions, both on contemporary and period instruments.

It is the historical pianos – such as Fryderyk Chopin's beloved Pleyel – that produce the delicate sounds that reflect the true spirit of Chopin's times. Today, thanks to Mr. Eric Guo – the brilliant virtuoso from Canada, we will experience this magic and we will move back in time to the era of Polish Romanticism.

I am deeply grateful to Japan Arts for organizing this wonderful concert, as well as for promoting Polish music and the International Chopin Competitions in Japan.

Congratulations to Mr. Eric Guo on his great success!

I wish you unforgettable artistic experiences.

Urszula Osmycka  
Director of the Polish Institute in Tokyo



#### ご来場の皆さま

今年の第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクールの優勝者の演奏会に皆様をお招きできることを嬉しく思います。アダム・ミツケヴィチ・インスティテュートにとって日本でのエリック・グオのコンサートを後援することは大変名誉なことです。インスティテュートの使命は複数ありますが、世界中で多くの人々にポーランドの文化に末永い興味を持っていただくことがそのひとつになっています。私たちは、このカナダ人アーティストの演奏が、このミッションを見事に果たしてくれることを確信しています。

エリック・グオの芸術性は第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクールの審査員に高く評価されました。インスティテュート運営によるポーランド文化振興の最大のポータルサイトCulture.plのインタビューで、優勝者自身がこの構想の重要性を力説しました。「ピリオド楽器はより洗練され多くのニュアンスを含んでいます。おそらくショパン自身も同意したことでしょう。ピリオド楽器は途方もなく大きな色彩のパレットを提供してくれるのです。」

エリック・グオが演奏するフレデリック・ショパンの作品に、皆様が我々と共に耳を傾けてくださることを願っています。たくさんの方の忘れ難い体験をされますように！

アダム・ミツケヴィチ・インスティテュート所長  
Dr. バルバラ・スハボフスカ

Ladies and Gentlemen,

I am pleased to invite you to join us at the performances of the winner of this year's 2nd International Chopin Competition on Period Instruments. It is an honour for the Adam Mickiewicz Institute to co-organise Eric Guo's concerts in Japan. The Institute's mission is, among other things, to foster lasting interest in Polish culture around the world, and we are confident that the Canadian artist's performances will absolutely fulfil this mission.

Eric Guo's artistry was appreciated by the jury of the 2nd International Chopin Competition on Period Instruments. The winner himself emphasized the importance of this initiative, stating in an interview with Culture.pl, the largest portal promoting Polish culture run by AMI also in Japanese, that "period instruments are more refined and nuanced – Chopin himself would probably have agreed. They offer a tremendous palette of colours."

Again, I hope you will join us to listen to Frédéric Chopin's compositions performed by Eric Guo – and I wish you many unforgettable experiences!

Dr. Barbara Schabowska  
Director of the Adam Mickiewicz Institute

アダム・ミツケヴィチ・インスティテュート(AMI)は、2000年に設立された国立文化機関です。当インスティテュートの目的は、ポーランド文化への持続的な関心を世界中に広めることであり、それはポーランドの外交政策に則り、海外パートナーとの協力や、受け手との対話による国際的な文化交流を通じて実現されます。当インスティテュートは2023年までに、イギリス、フランス、イスラエル、ドイツ、トルコ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、モロッコ、ウクライナ、リトアニア、ラトビア、中国、日本、韓国など、延べ6大陸70カ国以上でプロジェクトを実施してきました。アダム・ミツケヴィチ・インスティテュートが実施するプロジェクトの質の高さは、国際的な展示会やフェスティバルでの受賞歴により証明されています。

アダム・ミツケヴィチ・インスティテュートは、文化・国家遺産省により運営されています。



©GRZEDZINSKI

#### ご来場の皆さま

ショパンを愛する日本の聴衆の皆様、特に第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール優勝者の日本公演において、我々が敬愛する作曲家の音楽と一体となる音楽ファンの皆様にご挨拶できることは、私にとって光栄であり名誉なことです。

高名なショパン・コンクールの妹ともいえるこのコンクールは、フレデリック・ショパン自身を知っていた当時の音の世界を再現するユニークな試みです。私達は当時のピアノやそのレプリカと、著名な国際的な審査員、そしてすばらしい才能を持つ若手ピアニストを世界中からワルシャワに集め、ショパンの時代に回帰するという新たな方法により唯一無二の機会を聴衆に提供いたしました。

そしてジャパン・アーツとの特別な協力のおかげで、私達がこのすばらしい経験を日本の聴衆の皆様とも共有できるようになったことを、私は心から嬉しく思います。

ポーランド国立ショパン研究所所長  
アルトゥール・シユクレネル

Ladies and Gentlemen,

It is my honour and privilege to send greetings to Chopin's Japanese audience, especially all the music lovers who will be united by the music of our beloved composer during the Japanese tour winner of the 2nd International Chopin Competition on Period Instruments.

The Competition, which is a younger sister of the big Chopin Competition, is a unique attempt at recreating the original sound world which Fryderyk Chopin knew himself. By gathering in Warsaw original pianos and their copies, eminent international jury members and wonderfully talented young pianists from all over the world, we give the audience a unique opportunity to experience Chopin in a new and different way, which – paradoxically – is possible through the return to the old instruments.

I am really glad that thanks to our special co-operation with Japan Arts we can now share this wonderful experience with the Japanese audience.

Artur Szklener  
Director of The Fryderyk Chopin Institute

PROGRAM

モーツァルト：《フィガロの結婚》序曲 K.492

W. A. Mozart : The Marriage of Figaro Overture, K.492

ショパン：ピアノ協奏曲第2番 へ短調 Op.21 (ピアノ:エリック・グオ)

F. Chopin : Piano Concerto No.2 in F minor, Op.21 (Piano: Eric Guo)

- 第1楽章:マエストーソ 1st Mov.: Maestoso
- 第2楽章:ラルゲット 2nd Mov.: Larghetto
- 第3楽章:アレグロ・ヴィヴァーチェ 3rd Mov.: Allegro vivace

ショパン：ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11 (ピアノ:エリック・グオ)

F. Chopin : Piano Concerto No.1 in E minor, Op.11 (Piano: Eric Guo)

- 第1楽章:アレグロ・マエストーソ 1st Mov.: Allegro maestoso
- 第2楽章:ロマンツェ、ラルゲット 2nd Mov.: Romanze. Larghetto
- 第3楽章:ロンド、ヴィヴァーチェ 3rd Mov.: Rondo. Vivace

指揮: 鈴木優人 Masato Suzuki, Conductor

管弦楽: バッハ・コレギウム・ジャパン Bach Collegium Japan, Orchestra

使用楽器

プレイエル (1843年製)

1843年7月18日完成、10月9日エビネ子爵が購入。  
マホガニーケース 製造番号No.10456 長さ205cm  
タカギクラヴィア所有  
2018年度ショパン国際ピリオド楽器コンクール認定楽器



ピリオド楽器は構造的に華奢なため、コンサートで演奏できる楽器は多くありません。そのような中、このNo.10456はほぼオリジナル状態を保つ貴重な楽器です。

古典的なウィーン式を改良したシングルアクションは単純で軽い構造のため、繊細な表現を伝えやすく、音色は木質で柔らかく特にピアノシモでの音色の変化が美しいです。

PROFILE



エリック・グオ (ピアノ)  
Eric Guo, Piano

2023年、第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール優勝。マズルカ賞受賞。

2002年8月1日トロント生まれ。4歳でピアノを始める。現在、トロント王立音楽院グレン・ゲールド校でデイヴィッド・ルイに師事。

ジェラゾヴァ・ヴォラのショパンの生家、ワルシャワのショパン博物館、クラクフ歴史博物館、パリのサル・コルトーとポーランド図書館、ニューヨークのマーキン・コンサート・ホール(WQXRで放送)、ローリーのノースカロライナ博物館、トロントのケルナーホールなど、ヨーロッパ、アメリカ、カナダで演奏。ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ウラル・ユース交響楽団、フォートワース交響楽団、ミネソタ管弦楽団、オンタリオ・フィルハーモニックなどのオーケストラと共演。ピアノ・テキサス、カナダ・ミシサガ・ショパン・ピアノ・コンクール、ミネソタ国際e-ピアノ・ジュニア・コンクール、ヘイスティンクス国際ピアノ協奏曲コンクール、モスクワでの青少年のためのショパン国際ピアノ・コンクールなど多くのコンクールで入賞。また、CBCのHot Canadian Classical Musicians Under 30にも選ばれている。



Eric Guo, Piano

第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール 優勝者リサイタル

1月25日(木) 【浜松】 アクトシティ浜松 中ホール

主催:(公財)浜松市文化振興財団

1月26日(金) 【西宮】 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院 小ホール

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

## PROFILE



### 鈴木優人(指揮) Masato Suzuki, Conductor

東京藝術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第71回芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティブ・パートナー、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。23年4月より関西フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者に就任。鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズとして「ポッペアの戴冠」(2017)、「リナルド」(2020)、「ジュリオ・チェーザレ」(2023)を上演。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。九州大学客員教授。

©Marco Borggreve

X : @eugenesuzuki Facebook & Instagram : masatosuzukimusic Masato Suzuki, Conductor



### バッハ・コレギウム・ジャパン(管弦楽) Bach Collegium Japan, Orchestra



©K. Miura

鈴木雅明が世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを擁して結成したオーケストラと合唱団。2013年度第45回サントリー音楽賞を鈴木雅明と共に受賞。14年「バッハ：教会カンタータ全曲シリーズ」がエコー・クラシック賞、モーツァルト《ミサ曲ハ短調》

(17年)、J. S. バッハ《マタイ受難曲》(20年)がグラモフォン賞を受賞。20年秋上演 鈴木優人指揮・ヘンデル《リナルド》は第19回佐川吉男音楽賞を受賞。海外公演も多く、22年秋にはパリ、ウィーン等9都市を巡る欧州ツアーを実施。

フルート	菅きよみ 前田り子	ヴァイオリン I	若松 夏美[コンサートマスター]	ヴィオラ	エミリオ・モレーノ 朝吹 園子
オーボエ	三宮 正満 荒井 豪		荒木 優子 阪永 珠水		小峰 航一 深沢 美奈
クラリネット	満江 菜穂子 野田 祐介		佐々木梨花 寺内 詩織		丸山 留
ファゴット	村上 由紀子 鈴木 禎		原田 陽 堀内 麻貴	チェロ	山本 徹 上村 文乃
ホルン	大野 雄太 藤田 麻理絵		堀内 由紀		島根 朋史 山根 風仁
	下田 太郎 伴野 涼介	ヴァイオリン II	高田 あずみ 秋葉 美佳	コントラバス	今野 京 長谷川 順子
トランペット	斎藤 秀範 大西 敏幸		池田 梨枝子 遠藤 結子		布施 砂丘彦
トロンボーン	黒金 寛行		勝森 菜々 後藤 作樂		
ティンパニ	久保 昌一		杉本 真弓 水谷 有里		

Bach Collegium Japan, Orchestra



## ESSAY

### ショパンの新しい扉を開いた エリック・グオ

高坂はる香(音楽ライター)  
Haruka Kosaka

2回目の開催となるショパン国際ピリオド楽器コンクールにあたって、国立ショパン研究所(NIFC)からは大きな意気込みが感じられていた。第1回の手応えもあつてのことだろう、ショパンの本来の魅力を現代に伝えることを使命とする彼ら自身、今回はどんな発見があるのか、期待とともに模索する前向きな勢いがあった。

そこで今回、ピリオド楽器によるショパンの新しい扉を開いてくれたのが、優勝したエリック・グオだ。2021年にモダン楽器のショパン国際ピアノコンクールにも出場していた彼は、繊細なピリオド楽器を見事にコントロールし、ひとときよく通る音を鳴らした。ピリオド楽器の演奏経験やスタイルがどうという基準を超えた、シンプルに魅力的なショパンだ。

特にワルシャワ・フィルハーモニー大ホールに会場を移して行われたファイナルでは、構造上より豊かな音が鳴らしやすいエラールも選べる中、グオはプレイエルを選択し、ショパンの協奏曲1番を演奏。ダイナミックレンジが狭くなりがちな楽器であるにもかかわらず、どのピアニストよりも豊かな音を響かせ、抑揚たっぷりに歌った。指揮者や古楽オーケストラとのコミュニケーションも充分、モダン楽器にはない音色も使い、ピリオド楽器ならではの魅力を存分に伝えていた。

コンクールまでピリオド楽器を学んだことがなかったというグオは、演奏をこう振り返る。「僕のピリオド楽器の演奏経験は、参加者の中で最も浅いと思います。でも実際に弾いてみるととても早く慣れました。より多くの色を表現するため、モダンピアノで演奏している時の音色を想像してみると、とてもクリアに再現できたのです。特にプレイエルはたくさんのレイヤーや色を創造できる楽器です。

コンクールを通じてショパンはより近い存在になりました。今ではほとんど家族や良い友だちのように思えます」

音楽に生きる素直さと卓越したセンス、想像力、ショパンへの愛着が、グオを優勝に導いたのだろう。



## PROGRAM NOTES

那須田 務 (音楽評論)

Tsutomu Nasuda

1700年頃にイタリアで誕生したピアノは、その後鍵盤の先端のハンマーを跳ね上げて弦を打つウィーン式と、鍵盤とは別に設置されたハンマーを突き上げて打弦するイギリス式の二つのタイプに発展。後者のエラールは1820年代初めにより速い同音連打を可能にする機構を発明し、これが現代のピアノに繋がっていく。ショパンはワルシャワ時代にウィーン式を、パリ時代にイギリス式のフランスのメーカー、ブレイエルとエラールを愛奏し、とりわけ「ほんの少し柔らかなヴェールのかかったような銀色の音色のブレイエルを愛していた」という。この頃のピアノに共通するのは軽いタッチによる繊細な表現や、低音と中音域の弦が交差する以前の「並行弦」の透明な響きだが、ブレイエルは先の「機構」を備えていないぶん、現代の古楽器の経験の浅い弾き手には扱い難いものの、名状しがたい独特な香りが魅力だ。

本日はワルシャワの第2回ショパン・ピリオド楽器コンクールの優勝者エリック・グオの初来日公演にして優勝記念コンサート。グオは経歴を見る限りフォルテピアノの経験は少ないようだが、本選で協奏曲第1番をブレイエル(1842年製)で弾いて見事一位に輝いた。審査員の一人シュタイアーも「詩的で自然な音楽性と技術を持つピアニスト、本選でも楽器を良く響かせていた」と賞賛の言葉を惜しまない。本日の楽器もこれと同時期(43年製)のもので、ペダルはダンパーとシフトの二種類。21歳(ショパンが協奏曲を書いた頃の年齢だ)の瑞々しい詩的な感性を持った俊英が、ショパンの最も愛したピアノで、日本の誇るピリオド楽器のオーケストラである鈴木優人指揮バッハ・コレギウム・ジャパンと共演する。ショパンの二つの協奏曲をじっくりと味わいたい。

.....

ショパンは《ドン・ジョヴァンニ》の〈お手をどうぞ〉の主題による変奏曲を作曲するなど、モーツァルトが大好きだった。本日はそんなモーツァルトの《フィガロの結婚》序曲で幕が開く。1786年にウィーンで初演されたコミカルなオペラ・ブッフア。澁刺とした二長調のプレストの、浮き立つような陽気な気分が楽しい。

19世紀前半の音楽家がある楽器のヴィルトゥオーゾと認められるためには自らの力量が最大に発揮されるオーケストラ付きの楽曲を持つ必要があった。ショパンの管弦楽付きのピアノ曲もすべて17歳から20歳までの作だ。2曲の協奏曲然り。ワルシャワを出立する前にまずへ短調(第2番)が、続いてホ短調(第1番)が書かれたが、出版順が逆になったために現在の作品番号と通し番号になった。本日は作曲された順に演奏される。

**ピアノ協奏曲へ短調(第2番)**は1829年に作曲され、翌年3月3日自宅のサロンで演奏会用のリハーサルを経て3月17日にワルシャワの国立劇場で初演された。初版は1836年4月にライプツヒ、同年6月にパリで刊行され、ポトツカ伯爵夫人に献呈。この曲について必ず引用されるのが、親友のテイトゥスに宛てた手紙だ。「彼女のことは君にも書いたはずで、若くて、きれいな、しかも音楽家ではあるが、僕にはすでに——もしかすると不幸なことに——僕の理想があって、この半年というもの、言葉も交わさぬまま、忠実にお仕えしているし、その人は夢にも現れ、その人との思い出のために僕の協奏曲の〈アダージョ〉ができた……」。彼女とは当時ワルシャワ音楽学校で声楽を学んでいたコンスタンツィア・グワトコフスカ。ショパンは音楽院の学生コンサートで彼女の歌を聴き、想いを寄せていた。知的で感受性が鋭く、芸術的気質の持ち主で、物腰は非常に柔らかく魅力にあふれた女性だったという(以上『ショパン全書簡1816年～1831年』関口時正他訳岩波書店)。

**第1楽章**はオーケストラの提示部に続いて、ピアノのソロの提示部となる協奏的ソナタ形式。**第2楽章**変イ長調はコンスタンツィアへの想いが込められた甘いメランコリックな旋律が繊細なタッチの装飾的パッセージとともにノクターン風に綴られる。**第3楽章**はマズルカ風の楽想が何度も出てくる Rond 形式風ないしポプリ風。3連符による長いピアノのパッセージやコーダなど、ピアノの華麗なパッセージがふんだんに盛り込まれる。

**ピアノ協奏曲ホ短調(第1番)**は1830年4月から8月の間に作曲され、9月22日にやはり私的な試演を経て、10月11日にワルシャワにおけるショパンの最後の演奏会で初演。この時はコンスタンツィアも出演してロシーニの《湖上の美人》のアリアを歌った。楽譜は1833年6月にパリで、同年9月にライプツヒで、34年にロンドンで刊行され、当時の名ピアニスト、カルクブレンナーに献呈された。前作より規模も音楽もスケールが大きくなり、しばしばその間のショパンの精神的変化が指摘される。**第1楽章**は堂々とした趣の協奏的ソナタ形式。**第2楽章**ホ長調「ロマンス」も短い導入部を伴うノクターン風。**第3楽章**ホ長調は管弦楽の短い序奏を伴う Rond 形式風。随処にショパンらしいピアノの華麗なパッセージが鏤められ、後半最高の難易度となり、華やかに全曲が締め括られる。なお、本日はソロ、オーケストラともに、「ナショナル・エディション」通称エキエル版を使用する。